**韓半島未来財団フォーラム（2014．10．15．）**

　　　　　　　　　　　　　　　　　　**永野慎一郎（大東文化大学名誉教授）**

**討論要旨**

　21世紀はアジア時代であると言われて久しい。アジア時代を担う重心的な役割は日本、韓国、中国の3国の協力にかかっています。3国が緊密な協力関係が構築できれば、北東アジアにおける平和と安定に貢献できるだけでなく、アジア諸国のリーダーとして世界経済をリードし、アジア時代を作っていく基盤造成ができます。すなわち、パックス・アメリカーナに代わる新しい世界秩序を作っていくリーダーとしての役割が可能となります。

日中韓3国は世界人口の21.8％、世界GDPの20.4％、世界の貿易総額の18％を占めています。巨大な経済規模であり、世界最大の市場であります。日本の先進技術と資本、中国の人的資源及び潜在力、韓国の活力溢れるチャレンジ精神、この3つを組み合わせて、それぞれの国の短所を補充できれば、更なる発展が可能です。

　最近の日中韓3国関係は首脳会議も開催できないほど冷え込んでいます。日中、日韓の2国間首脳交流も中止のままです。このような状況を関係諸国の大多数の国民は決して望んではいないと思います。

この背景には歴史認識問題や領土問題がありますが、それぞれ相容れない国内世論を背後に持っているという事情があります。しかし、そのような土壌を作り上げているマスコミやオピニオン・リーダーたちにも問題があるのではないかと思います。目前の国益だけを追求するのではなく、広い視野で長期的な展望の上での国益の追求こそ重要ではないかと思います。自国の国益だけでなく、「共益」を追求しなければならない時代です。

指導者たちは知恵を絞って問題解決に努め、関係改善に取組む必要があります。目前の政治状況だけを見て判断するのではなく、未来志向で将来の展望を考えながら、大局的な見地から判断し、行動する必要があります。交流を重ねることによって、理解を深め、信頼関係を構築することこそ重要だと思います。お互いに相手側の立場も認め合い、尊重し合い、譲り合うことが大事です。そのようにすれば、失われることよりも得られることが多いはずです。

また、そういう環境を作り上げるための世論づくりも重要であります。トップレベルの交流をはじめ、様々なレベルでの交流が必要です。本音で話合える関係の構築が重要です。

平山征夫先生が新潟県知事時代の新潟発の様々な構想が「予防的平和外交」として進められていたことは評価しなければなりません。重要な政策が、知事退任によって停止になったことはとっても残念なことです。しかし、人的交流の拡大を通じて積み上げてきた「予防的平和外交」の考え方はどこかで潜んでいると思います。それを糾合するためのさらなる努力が必要と思います。

北東アジア経済圏構想は、国ではなく、地域レベルでの経済圏構想であり、関係国がまだ成熟した経済体制ではなかったため、限界があったものと思われます。ある意味では、時期尚早であったかもしれません。

しかし、EUは、欧州石炭鉄鋼共同体から始まりますが、フランスとドイツは国境地域の石炭及び鉄鋼鉱産の経営権を巡って大きな戦争を3度も戦った経験がありました。ジャン・モネという思想家が紛争回避のために国境地域の炭鉱の共同管理、共同経営を提案し、それを仏・独両国が受け入れ、伊、オランダ、ベルギー、ルクセンブルクが賛同して1952年に欧州石炭鉄鋼共同体が設立されました。この6か国がEECやEURATOMを設立し、それがECへと発展し、さらに拡大してEUとなったのです。現在、27カ国がEUに加盟して、経済統合から政治統合へと進んでいます。

EU統合への経緯は北東アジア地域諸国が抱えている懸案の解決に大変参考になると考えております。特に、領土問題になると相反する国民世論を背後に抱えていることを考えると、どちら側も譲れない政治問題です。領有権は保留して共同管理のようなものを考えることも解決策ではないかと思います。検討課題だと思います。

朝鮮半島の平和と安定および南北関係の改善には米国同様、中国と日本の役割が極めて重要であると考えております。当面の課題としては、北朝鮮の改革・開放への誘導でありますが、それが結果的に北朝鮮の経済的安定と民主化に繋がり、同時に政治的安定すなわち、体制の安定となるということを北の指導者たちが納得するようにすることです。具体的には中国の政治的な影響力行使と日本の経済的支援体制になりますが、そのためには拉致問題や核・ミサイル問題などを同時進行で解決していくという政治的な判断が必要となります。

サハリンのガスパイプラインを新潟に引いて韓半島経由で、北京まで敷設する方法がありますが、それよりもシベリアからガスパイプラインを北朝鮮経由で韓国に持ってくるということがより現実的であります。北朝鮮には通過料が入るという経済的実利があります。

それに日韓海底トンネルの建設です。東京駅からソウル駅まで新幹線とKTXが相互乗り入れで日韓海底トンネルを通って運航するというプロジェクトですが、さらに軍事境界線を通過し、朝鮮半島を縦断して中国東北地方の鉄道網に繋がり、ユーラシア経由でロンドンに至るというプロジェクトです。北朝鮮の事情を考えれば、当分は北朝鮮領内を通過する場合は貨物列車のみにすることも考えられます。それを始まりとして、鉄道と道路で繋いで北朝鮮地域を通過できるようになれば、北東アジア地域は一体化となります。これが統一への道であり、東アジア共同体実現へ向けての大きな前進となります。

